

**自己点検・自己評価結果及び学校関係者評価委員会の
学校評価結果（ホームページ用）**
令和6年度分

学校法人中九州学園（出水・白山・画図幼稚園）

1. 建学の精神、教育・保育理念、教育・保育方針、教育・保育目標、目指す教師像

建学の精神	一人ひとりの幼児の無限に近い可能性を信じ、その可能性に希望の火を点じ、その火が永久に燃えるようにとの願いを込めた幼児教育・保育を行う。
教育・保育理念	○ どの子どもにも・・・分け隔てなくすべての幼児に ○ よい環境で・・・安心して遊べるぬくもりのある環境で ○ よい教師による・・・質の高い教師による（目指す教師像） ○ よい教育・保育を行う・・・一人ひとりの能力に応じた教育・保育を行う
教育・保育方針	1. すべての幼児に門戸を開き、その能力に応じた教育・保育を行う。 2. 一人ひとりの幼児の人格を尊重した教育・保育を行う。 3. 徒歩通園（歩くこと）を重視した教育・保育を行う。 4. 健常児と特別な支援が必要な子どもが共に育つ統合教育・保育を行う。 5. 地域社会に密着した教育・保育を行う。
教育・保育目標（目指す幼児像）	○ 知・徳・体の調和のとれた人間を育てます。 ・ 個性豊かで思考力に富む人間（知） ・ 豊かな情操とたくましい意欲をもつ人間（徳） ・ 明るく、強く、おおらかな人間（体）
目指す教師像	1. 人情のある教師 2. 子どもといっしょに遊び得る教師 3. 人間の偉大さを知る教師 4. 自然を愛し、自然に興味をもつ教師 5. 子どもの僕たり得る教師 6. 創造的な教師 7. 子どもと同じ目の高さになれる教師 8. 幼児教育の専門的な目をもつ教師 9. 一人ひとりの幼児をみつめる努力をする教師 10. 公平無私の教師

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・国や県や私立幼稚園連合会や熊本市私立幼稚園協会などが主催する研修会に積極的に参加するとともに、自園の教育課程や指導計画の内容を見直し改善し、教職員の共通理解をはかり、教育・保育の質を高める。
- ・本園の教育・保育理念や方針等を保護者に話すとともに、保護者のニーズや本園の教育・保育に対する意見や助言を聞き、本園としての中・長期のビジョンを明確にしていく。
- ・施設設備のさらなる改善・充実を図り、安全な幼稚園環境の整備に努める。
- ・新幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に関する研修会に積極的に参加し、理解を深める。
- ・教職員のキャリアアップ研修への積極的な参加と処遇改善に努める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程や指導計画は幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の精神を踏まえ、園の教育・保育理念、教育・保育方針にしたがい編成している。	幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の説明会や研修会に、全教員が参加し、教職員の共通理解をはかり、教育課程や指導計画の見直しと編成を行っている。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えている	毎年、学期の終わりに、年間の指導計画の見直しを行い、幼児の実態に即した内容にしている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	教師は一人ひとりの日々の活動や記録から幼児の実態を把握し、日案の作成に反映させている。
各クラスの状況の把握	毎日の教職員の打ち合わせの時間、さらには毎週行っている職員会議の時間に情報の交流を密に行っている。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	毎日教職員で話し合いをもち、全教職員が一人ひとりの幼児について共通理解がもてるようにしている。クラスや学年の枠を超えて全教職員で一人ひとりの幼児を支援している。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	幼稚園の環境構成については全教職員で話し合い、幼児が自分で工夫して遊び、それが発展して互いの特性を活かし合いながら友達と協力して遊べるようにしている。 5歳児後半には主体的で対話的な深い学びの姿をイメージしている。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をイメージしながら教育・保育をしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	登園から降園までの一日の流れの中で、身につけて欲しい生活習慣の指導と実践を行っている。
全教職員がお互いの保育を観察し勉強できるようにしている。 フリーの本務保育教諭を配置している。	他のクラスや姉妹園のクラスを観察したり、熊本市私立幼稚園協会や熊本大学附属幼稚園が開催する公開保育などに参加して、その報告会を開き、より良い教育が行えるようにしている。フリーの本務保育教諭がいるので園内・園外で安心して勉強できる環境になっている。
各研修会や研究会に積極的に参加して教職員に資料提供している。	国、県、市、全日本私立幼稚園連合会などが主催する各種の研修会に積極的に参加し、報告書の作成を行うとともに職員会議でも情報を提供し、学んだことを共有化できるようにしている。幼稚園も研修のための経済的な支援に力を入れている。
園便りや合同研修会をととして幼稚園の情報を発信していく。	園の教育方針や取組を毎週のお便りに記載している。姉妹園との情報の交流や合同の勉強会を行っている。

教育目標や短期経営目標と連鎖した評価項目を作成。実施・反省・対応のサイクルを確立する。	P D C Aサイクルを念頭に置き、さらに充実したきょういくなるように配慮している。 P=Plan計画、 D = Do 実行（実施）、 C = Check、評価、 A = Act改善（処置）
特別支援教育	一人ひとりの幼児のニーズに対応した支援を行い、個別の指導計画・教育支援計画も作成している。外部の療育関係の機関との連携も積極的に行っている。 各園にフリーの本務教員として、主幹保育教諭、指導保育教諭、保育教諭を配置し、特別支援教育を充実させている。
一時預かり	通常保育後に幼児に無理がない範囲で一時預かりを行い、保護者のニーズに応えている。また、長期休暇中も一時預かりを朝8時半から午後6時30分まで実施している。
子育て支援	各園にフリーの主幹保育教諭とフリーの保育教諭を配置し、子育て支援の充実に努めている。 未就園児の親子を対象にして「おやこひろば」を開催し、親と子どもがともに育つ場を無料で提供している。 常時園庭を開放し、未就園児と保護者の遊びと交流の場を提供している。
安全管理・飲料水の検査 遊具等 飲料水	日々の遊具等の安全点検の他に年に一回（8月）専門の業者（南日本遊具）による安全点検も実施し、子どもたちが安心、安全に遊べる環境になるようにしている。 飲料水の検査は、毎年4月に熊本県薬剤師協会にお願いしている。
教育環境整備 空調等 野外活動の場	施設や設備の安全・維持管理のための点検を定期的に行っている。 学校薬剤師を委嘱し定期的に各種点検（室内の二酸化炭素濃度、照度、ダニ、プール、水質等）をしてもらっている。 空気清浄機とエアコンが全教室に設置されている。 A E Dを常備している。 野外活動の場として野外保育場や栽培園の環境整備を心掛
防災防火地震等避難訓練	毎月、防災防火地震等避難訓練をしている。 緊急時のため非常食、非常のための水を常備している。 防災頭巾を全園児分備えている。 園庭側のガラスをすべて強化ガラスにしている。 防犯カメラを設置している。
園に対する保護者の気持の把握	幼稚園の教育や行事に対して保護者から感想や意見をいただくようにしている。また、担任と保護者間に連絡帳があり、いつでもご意見をいただけるようになっている。
園の財務状況	借入金はなく、毎年公認会計士と幼稚園の監査員より監査を受け適正に処理されているとの報告を受けている。
情報提供 保護者との連携	園便りや学級便りさらには各家庭との連絡帳などにより情報の提供をはかっている。 毎日の送り迎えの時間に積極的に保護者との会話をを行い、互いの情報の交流に努めている。 また、園のホームページも充実したものになるよう努力している。

園児募集	子どもの視点に立った本園の教育理念・方針、そしてお弁当の大切さをわかりやすく保護者に話すことの重要性を感じた。特に新入園児の保護者の方にその意義を理解してもらうよう在園児の保護者の感想を含めたパンフレットを作成した。
その他	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
良好	教師一人ひとりが学校評価の趣旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んだ。今後も客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねていきたい。 施設面では安全対策や安全管理、環境整備に力を入れ、日々の遊具等の安全点検、年一回の専門の業者の遊具の安全点検、学校薬剤師による定期的な保育室や厨房の点検などを実施して、子どもたちが安心かつ安全に遊べる環境になるように努力した。 園の教育・保育や施設等について保護者からのクレームはなく、良好な運営ができています。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
中九州学園の教育の理解の推進	出水、白山、画図幼稚園の教育については保護者の皆様から良好な評価を得ているので、在園児以外の方への情報発信を進めて行きたい。
自己点検、自己評価	毎年3月末に各教職員が自己点検、自己評価を行い、それを元に全員で話し合いをしているが、その結果が次年度の幼児教育に活かされるようさらに努力する。
指導計画の編成	教育課程や指導計画の見直しは年に3回行っている。本年度も指導計画の改善・作成のために、訂正、加筆をさらに加え、園を取り巻く環境や幼児の実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。
教育環境整備	園舎、遊具、野外保育所などの環境整備をさらに充実していきたい。
その他	教職員が各種書類作成するためのICT化の推進 園児の登降園や預かり保育の管理のためのICT化の推進

6. 学校関係者評価委員会の意見

（保護者からの学校評価の回収結果と本学園教職員の自己点検・自己評価をもとに、7名の委員から

構成される委員会の意見）

開催日	結果	意 見
-----	----	-----

令和7年 5月18日	良好	中九州学園では3園（出水・白山・画図幼稚園）とも幼稚園の衛生・安全管理や環境整備に積極的に取り組まれている。学校内科医、歯科医、薬剤師、獣医師も委嘱され安心・安全で健康的な教育・保育環境の整備に努力されている。 教職員の自己点検・自己評価も毎年なされ、教職員が使命感と情熱をもって幼児教育・保育に取り組んでいることがわかる。 しかし残念ながら、1名後輩の職員への言動が不適切な職員がいたので理事長が厳重に忠告されたということで今後注視していかなければならない。 保護者は幼稚園に好意的で特段取り上げるような苦情もなく、幼稚園が信頼されていることが分かる。 3園（出水・白山・画図幼稚園）とも特別支援教育や未就園児の親子を対象とした幼稚園の開放も積極的に行われ、地域における幼児教育・保育のセンター的役割も果たしている。幼小連携も積極的に行われている。 園全体のICT化も始められており仕事の効率化が期待される。 委員会の一致した意見として、良好な幼児教育・保育及び管理運営がおこなわれていると評価されたが、園児数が減少しているので注視していく必要がある。
---------------	----	--

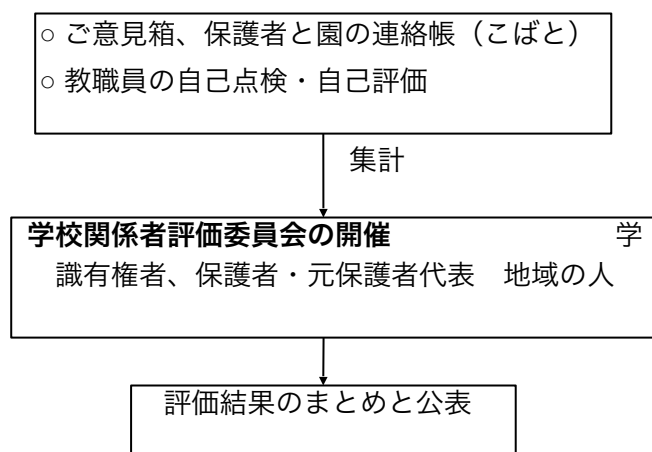
学校関係者評価委員会報告書

日時及び場所： 令和7年5月18日 午前11時15分～11時50分
熊本市中央区国府2-10-39 出水幼稚園

令和6年度の中九州学園（出水幼稚園、白山幼稚園、画図幼稚園）学校関係者評価委員会を開催し、中九州学園の幼児教育・保育と運営等について評価した。

（学校関係者評価委員会メンバー）

学識有権者： 村上邦子、吉田睦子、大野文枝、中村ひとみ
保護者代表（元保護者代表）： 後藤道弥、野添道子
地域の人： 磯田陽子
傍観者： 後藤和文（理事長）、後藤順子（副理事長）



学校関係者評価委員会の意見

結果	意 見
良好	中九州学園では3園（出水・白山・画図幼稚園）とも幼稚園の衛生・安全管理や環境整備に積極的に取り組まれている。学校内科医、歯科医、薬剤師、獣医師も委嘱され安心・安全で健康的な教育・保育環境の整備に努力されている。 教職員の自己点検・自己評価も毎年なされ、教職員が使命感と情熱をもって幼児教育・保育に取り組んでいることがわかる。 しかし残念ながら、1名後輩の職員への言動が不適切な職員がいたので理事長が厳重に忠告されたということで今後注視していカれたい。 保護者は幼稚園に好意的で特段取り上げるような苦情もなく、幼稚園が信頼されていることが分かる。 3園（出水・白山・画図幼稚園）とも特別支援教育や未就園児の親子を対象とした幼稚園の開放も積極的に行われ、地域における幼児教育・保育のセンター的役割も果たしている。幼小連携も積極的に行われている。 園全体のICT化も始められており仕事の効率化が期待される。 委員会の一致した意見として、良好な幼児教育・保育及び管理運営がおこなわれていると評価されたが、園児数が減少しているので注視していく必要がある。